

第4回

1. 日時 平成14年7月26日(金) 13:30～15:30

2. 場所 東京都港区虎ノ門4-1-1
虎ノ門パストラル 新館6階 ヴィオレの間

3. 委員の現在数 4名

4. 出席した委員の数及び氏名

委員長 若杉 敬明

委員 神作 裕之

委員 中村 実

委員 山崎 元

以上 4名 出席

5. 審議事項及び報告事項

- . 平成13年度積立金運用実績 (報告)
- . 電力債運用について (審議)
- . 預金取引金融機関の選定について (審議)

6. 開会

若杉敬明委員長から、本日の積立金運用委員会は同規則第4条の規程による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告を行った。

続いて、板倉治成理事長が挨拶を述べた後、経済産業省放射性廃棄物対策室長に新しく就任された山近氏よりご挨拶をいただき、議事に入った。

7. 議事の概要

委員長は、. 平成13年度積立金運用実績、. 電力債運用について、. 預金取引金融機関の選定について

以上、報告事項1項目及び審議事項2項目の事務局案を、井上毅常務理事から説明を行わせた。

その後、当該事項について審議した結果、大綱了解を得た。

8. 次回スケジュール

平成15年1月を目途に開催したい。

9. 閉会

以上をもって議事全てを終了し、委員長は閉会を宣した。

委員会で寄せられた意見

. 平成13年度積立金運用実績報告について

平成12年度積立分として初年度（平成13年2月及び3月）に受け入れた、1,030億円の積立金の運用については、平成13年度において、原環機構への取り戻し額を差し引き、期中の運用利息を加え、運用計画に沿って運用をはかり、年度末までには、各債券ともほぼ計画通りの運用となり、特段問題となるものはない。

また、平成13年度末の平均利回り1.45%についても、国債を中心とした債券構成割合を考えると、概ね妥当なところではないか。

平成13年度積立分として、平成14年3月に受け入れた約700億円についても、受け入れ後、直ちに運用計画に沿って運用を開始し、平成14年7月末現在、ほぼ計画通りの運用となっており、特に問題はないのではないかと。

直近の債券運用の利回りがやや低くなっているが、金利低下等その後の金融情勢をふまえると、やむを得ないのではないかと。

. 電力債運用について

第3回 積立金運用委員会で審議した電力債運用に際しての自主ルール制定に関し、運用総額の規制については、電力債のマーケットシェアとの整合性および過半数を超えないという点を考慮し、年度運用計画策定時に上限額を社債券の年度購入総額の50%以内（導入初年度にあたる13年度積立分においては25%以内）とし、購入後の保有残高は、積立金総額の10%以内とすることでよいのではないかと。

* 自主ルールの制定については [こちらをクリック](#)

電力債（一般担保付）運用にあたって、一発行体あたりの規制に関して、同一の者が発行する社債券で運用できる積立金の額は、他の社債券（無担保）

と同様、社債券で運用する積立金総額の20%以内とすることでよいのではないか。

当然のことではあるが、電力債運用に関して、他の社債券と共通する事項については、他の社債券と同様の扱いとし、保有銘柄の格付け引下げ時の対応等、特別視しないこととすべきではないか。

電力債運用にあたっての対外的な情報公開への対応として、積立金の拠出元の電力との関係を考慮すると、年度の電力債購入予定額の上限割合並びに購入実績について開示するだけでなく、どのような運用ルール（総額の規制、一発行体あたりの規制等）で行っているかについて、運用業務に支障のない範囲で、ホームページ等で積極的に開示しておいた方がよいのではないか。

・預金取引金融機関の選定について

当センターが、預金の預け先としている金融機関は、資金管理業務実施細目の運用制限で定める一定短期債務格付けを付与された大手都市銀行の中から選定しているが、最近の金融機関の再編等により預け先の金融機関が限定されてきたのはやむを得ないとしても、一行に集中するような状況は避けた方がよいのではないか。

今後の預金の預け先選定の検討にあたり、格付以外にも、自己資本比率、株価、社債利回り等を定期的にウォッチし、必要に応じて積立金運用委員会へ報告、審議するという方向でよいのではないか。

「事務局」資金管理業務部 TEL : 03 - 5157 - 5850